

一般社団法人 協力隊を育てる会 御中

## 小さなハートプロジェクト報告書

本報告書や写真等は原則として公開するものとし、一般社団法人協力隊を育てる会が広報等に使用することに同意し、下記のとおり報告します。

平成 26 年度 3 次隊 職種 看護師 派遣国 ジブチ共和国 出身県 栃木県

氏名 安藤 はるか (ふりがな あんどうはるか )

### 1. プロジェクト名 町の病院の上水道設備強化プロジェクト

### 2. プロジェクト概要 (準備や実施の期間などを記入)

期 間	実 施 内 容	主たる担当
10 月	保健省へ本プロジェクトの実施許可を申請	ボランティア
11 月 5 日～ 12 月 28 日	貯水槽建設準備・実施	州庁、病院スタッフ ディキル町民
12 月 20 日～ 12 月 28 日	病院内の配管工事	病院スタッフ、 ディキル町民

### 3. プロジェクト進捗詳細

#### 進捗状況①

●なかなか始まらないプロジェクト  
～建設開始までの長い道のり～

#### ●詳細説明

建設工事が始まる約一年前の 2015 年 11 月より、病院長やディキル州庁職員とともに病院内に 50 m<sup>3</sup>の貯水槽を建設する計画を進めていました。ディキル保健センターは器材や資源 (砂や石) の運送費、ディキル州庁は技術労働者と資源の運搬、ボランティアは小さなハートプロジェクトによる支援者様からの支援金で必要器材を購入するといった役割分担を明確にし、それぞれが担う費用を书面化して協議を重ねてきました。しかし 2016 年 10 月にいざ着工しようとした際、多くの問題が浮上してきました。第一に 2016 年 4 月にゲレ大統領が再当選後、省庁大臣の人事異動により、保健大臣が変わりました。それに伴い、病院内の工事などにはすべて保健大臣の許可が必要になりました。保健大臣の許可を得るための手続きにはディキル保健センター病院長、ジブチ保健省地域保健課長、ジブチ保健省保健大臣補佐官の許可が事前に必要となり、彼らへの謁見や説明文書の作成を何度も行い、保健大臣への許可願を書くように説得していきました。また、州庁では本プロジェクトを州知事の許可なく進めていたことがわかり、州知事への謁見や、州庁職員、州庁技術労働者に対する説明を一から行ってきました。プロジェクト計画段階では準備万全にしていたはずでしたが、なかなか着工しない現状に不安と焦りが募る日々でした。

## **進捗状況②**

### **●協同作業の現場**

～住民と共に建設するための工夫～

### **●詳細説明**

11月5日より貯水槽建設を着工しました。州庁からは最初は1日に4人の技術労働者が来ましたが、工事段階では彼らや病院スタッフ達のモチベーションの低さ、工事の遅れが課題となりました。毎月の給料は一定額しかもらえない彼らにとって、貯水槽建設に対するモチベーションは低く、朝7時から12時まで働く約束をしていますが、彼らが病院に来るのは8時半、朝食を食べに1時間休憩し、11時過ぎには帰宅という日々が続きました。また計画通りに工事することや、事前に必要物品を準備することができないことも工事の進捗を大幅に遅らせることとなりました。病院の警備員達もお金がなければ働かないという調子で手伝う人がいない現状を受け、彼らを動かし、建設を進めるにはどうしたらいいのか日々考え、工夫し、評価してきました。まずボランティア自身も技術労働者達と共に積極的に工事し、彼らの仕事の監督をするようにしました。州知事や州庁職員に度々病院に来てもらうよう要請し、プロジェクト遂行期限を確認するだけでなく、彼らの頑張りを褒めるように伝えました。病院を訪れる多くの住民に彼らの仕事の様子や衛生面での水の大切さ、手洗いの重要性を伝えていきました。周囲の人からの応援もあり、工事が進んでいくにつれ、技術労働者と州庁、ボランティアの一体感が増し、完成に対する士気が上がってきました。また、州庁の技術労働者長、州庁職員を交えて毎朝協議し、一日の工事計画を立案していきました。これを行うことで技術者たちが工事の遅れを認識することや、作業工程の見直しを話し合う機会が増えました。また計画の遅れを取り戻すべく、州庁の協力のもと多くの技術者が建設にかかわるようになってきました。

## **進捗状況③**

### **●町の住民からの支援**

～貯水槽建設にかける思い～

### **●詳細説明（500文字程度）**

プロジェクト遂行中課題が多く悩むこともありましたが、完成を待ちわびている住民の言葉に励まされてきました。多くの住民がプロジェクトに賛同し支援してくださりました。

ジブチ電力ディキル支所長「私は、この遠くの地に来て、私たちのためによく働いてくれる日本人達を皆尊敬し、その仕事に少しでも貢献したいと思い寄付しました。」

ディキル高校の学校長「はるかには私の高校でたくさんの活動をしてくれた。そんなはるかが貯水槽の建設に困っていると聞いたから寄付しました。」

農業省役人「ここは私たちの国です。貯水槽は私たちの子どもたちの未来をよくするためのものです。」

ディキル州知事「あなたと日本の皆様に感謝の気持ちを伝えたい。ディキルのために貢献してくれて本当にありがとう。」

## **4. プロジェクト成果**

貯水槽建設と配管工事着工期間：2016年11月5日～2016年12月28日

約32m<sup>3</sup>の貯水槽と、病院内に新たに建設した庭園への配管、その他老朽化した水道管の入れ替え工事が完了しました。貯水槽の蓋は施錠でき、医療従事者により管理されています。当初病院スタッフや患者・

家族に対して衛生指導を行う予定でしたが、貯水槽の建設の遅れにより実施できず、今後継続して取り組むべき課題となりました。

## 5. 反省・感想

### 反省点

プロジェクト計画立案時に病院の水の需要量と供給量、モーターの一日の使用頻度、使用時間、壊れる頻度、医療従事者や病院スタッフ、患者や家族の水の使い方、トイレの使い方、トイレの清掃頻度、掃除の仕方など多くの調査を行うことが必要でした。貯水槽の管理体制の構築や衛生教育まで行うことができませんでした。

### 感想

一つのプロジェクトを成功させることがどれほど大変なことわかりました。しかし未熟ながらプロジェクト遂行したことで、現地の住民とどのように関わりながら遂行していくか、課題への臨機応変な対応の重要性を知ることができました。また貯水槽と配管工事が完成した時の喜びは大きく、同時に協力してくださった多くのディキルの住民への感謝は計り知れないものでした。ディキル州住民、ディキル保健センター、小さなハートプロジェクトを通じた支援者の方々、JICA スタッフの協力があったからこそ、貯水槽と水道設備を設置することができました。



No1 2016年11月5日 貯水槽着工前の様子



No2 州庁技術者に柱の骨組みの作り方を聞いている様子





No3 医療職者、州庁技術者が力を合わせて貯水槽の外壁の石を運ぶ様子



No4 貯水槽建設に取り組む州庁技術者とボランティア



No5 2016年12月28日 貯水槽が完成し、病院内の各課に貯水槽からの水が行き渡りました